

小 学 校

令和 4 年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究仮説	1
III	研究主題に迫るための具体的な手だて	2
IV	研究の方法	2
V	研究構想図	3
VI	検証授業	4
VII	成果と課題	16

研究主題

主体的に問いを追究・解決しようとする児童の育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～

I 研究主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）では、情報技術の急速な発展や超高齢社会の到来、国際化の進展など、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきていることが指摘された。そして「小学校学習指導要領解説総則編」では、「このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」と示されている。

これらの指摘等を踏まえ、部員所属校の児童の実態を基に、社会科の指導上の課題及び改善の方向性について話し合ったところ、「調べたいと思った問いについて、社会的な見方・考え方を働かせながら、児童同士で協働して粘り強く調べられるようにすること」、「追究した内容を基に話し合い、学習を深められるようにすること」、「学習の目的や意義を明確にしなが、自ら学習を振り返ることができるようにすること」が挙げられた。そのようなことから、本研究では、「児童は、社会的事象に対して抱いた問いを、個人または児童同士で主体的に追究・解決することに難しさを感じており、その問いについて探究したり、まとめたことを基に議論したりしながら、深く学ぶことにつなげられていない」ことを解決すべき課題として捉え、研究主題を「主体的に問いを追究・解決しようとする児童の育成」とし、目指す児童像を「社会的事象について自ら解決したい問いを、自分に合った学び方で他者と協働して、主体的に追究・解決しようとする児童」とした。

研究主題に迫るための議論の中で、児童が主体的に問いを追究・解決するためには、児童自身による意欲的・積極的な学習活動を尊重・促進・保障する必要があると考え、本研究では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に着目することとした。『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和 3 年 1 月 26 日）では、「個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくこと」が求められ、『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要」と述べられている（次頁、表 1）。以上のことから本研究では、副題を『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を通して」と設定し、「個別最適な学び」の視点から児童一人一人の興味・関心に応じた学習を充実させるとともに、異なる考え方が組み合わさる「協働的な学び」を一体的に充実させていくことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行いながら、研究主題に迫ることとした。

II 研究仮説

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、児童は社会的事象に対する問いを、主体的に追究・解決できるようになるだろう。

【表1】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の定義

個別最適な学び	子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、教師が必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行うことで、一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める「指導の個別化」と、子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行うことで、異なる目標に向けて、学習を深め、広げる「学習の個性化」の二つからなる学び
協働的な学び	子供一人一人のよい点や可能性を生かし、子供同士、あるいは多様な他者と協働することで、異なる考え方が組み合わせることで生まれるよりよい学び

※ 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）を基に作成

III 研究主題に迫るための具体的な手だて

1 「個別最適な学び」を充実させる手だて	2 「協働的な学び」を充実させる手だて
<p>(1) 児童が主体的に「問い」を追究できる学びの選択</p> <p>児童が、追究する課題、整理する方法、学習形態を自ら選択することで、「学習の個性化」を実現し、自身に適した学習に調整できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究する課題⇒学習問題に基づき、児童が自らの興味・関心に応じて課題を選択する。 ・整理する方法⇒ノートにまとめる、付箋を使って図表を作成する、絵や年表で表す等の方法を選択する。 ・学習形態⇒児童が必要に応じて、個別学習とグループ学習を自由に選択しながら学習できるようにする。 <p>(2) 児童が課題の解決に必要な情報を選択できるICTの活用</p> <p>画像、動画等の資料を学習者用端末に配布することで、児童が必要な情報を拡大して見たり、繰り返して確認したりできるようにした。インターネット上の資料を活用する際には、信頼性の高いウェブサイトのリンク集を準備し、正確な情報を得られるようにした。</p> <p>(3) 学習内容や時間のまとまりを見通した学習過程の工夫</p> <p>児童自身による自主的、自発的な学習を保障するために、複数の課題をまとめて3～5単位時間程度で解決する学習過程にし、児童が自らの学びを調整できるようにした。追究する課題には軽重をつけることを認め、自らの興味・関心に応じた学びを尊重した。</p>	<p>(1) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える話し合い活動の充実</p> <p>課題追究の場面において、毎時間の最後に共有の場を設けた。報告会では、ねらいに応じたグループを作り、児童一人一人が追究した内容を伝え合うことで、次時における自らの学びをより良いものにできるようにした。</p> <p>また、課題追究の後半やまとめの場面では、児童一人一人が追究した内容を組み合わせで解決する課題を設定した。共通の課題に取り組むことで、調べた情報が再構成され、新たな価値につながるようにした。個別学習の成果を生かして課題を解決しようとする中で、自分や他の児童の学習の価値を認識できることをねらいとした。</p> <p>(2) 児童一人一人の学びを共有するICTの活用</p> <p>学習者用端末を活用して、毎時間の学習状況を共有した。学級で全児童が同時編集できるアプリケーションを活用し、課題追究の際に児童一人一人が追究している課題と進捗状況を表示して、いつでも他の児童と相談したり質問したりできるようにした。また、追究した内容は学習者用端末を用いて共有することで、児童同士で調べた内容を確認し合えるようにした。</p>

IV 研究の方法

単元終了後にアンケートを実施し、学習過程における児童一人一人の学習状況を分析した。毎時間の学習活動が児童にどのような変容をもたらしたのか質問紙調査を基に分析するとともに、児童への面接を通して学びが深まった理由を問い、変容のきっかけを分析した。

V 研究構想図

背景

【小学校学習指導要領 第2章 第2節 社会】

単元の内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、問題解決への見通しをもつこと、社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などを考え、概念などに関する知識を獲得すること、学習の過程や成果を振り返り、学んだことを活用することなど、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図ること。

【中央教育審議会答申】

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要がある、そのためには、新学習指導要領の着実な実施が重要である。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

〔小学校社会科部会の研究主題〕

主体的に問いを追究・解決しようとする児童の育成
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～

仮説

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、児童は社会的事象に対する問いを、主体的に追究・解決できるようになるだろう。

研究の内容・手だて

社会的事象との出会い→児童一人一人の問い

1 「個別最適な学び」を充実させる手だて

- (1) 児童が主体的に「問い」を追究できる学びの選択
- (2) 児童が課題の解決に必要な情報を選択できるICTの活用
- (3) 学習内容や時間のまとまりを見通した学習過程の工夫

2 「協働的な学び」を充実させる手だて

- (1) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える話し合い活動の充実
- (2) 児童一人一人の学びを共有するICTの活用

主体的・対話的で深い学び

目指す児童像

社会的事象について自ら解決したい問いを、自分に合った学び方で他者と協働して、主体的に追究・解決しようとする児童

VI 検証授業

1 検証授業① 第4学年

(1) 単元名 「自然災害から人々を守る～水害からくらしを守る～」

(2) 単元の目標

地域の自然災害（本単元では水害）から人々を守る活動について、過去に発生した地域内外の水害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめたことから、地域の関係機関や人々は水害に対して様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域の一員として、今後起こり得る大きな水害に対して自分ができることを考えようとする態度を養う。

(3) 教材観

本単元では、「地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること」をねらいとしている。そこで、東京都で多くの被害が出ている水害を取り上げることとした。課題把握の場面では、地域の大雨の回数が増加している一方で、住宅の浸水被害件数は年々減少傾向にあるという事実から、「水害からくらしを守るために、だれがどのような工夫をしているのだろう」を学習問題とした。課題追究・解決の場面では、主体的に問いに迫れるよう、自助・共助・公助の中から児童が調べたい内容を、個別に、また集団で選択できるようにした。また、学びを「生かす」場面では、様々な水害対策がとられている一方、国民の防災に対する意識が低いという調査結果を紹介した上で、地域で起こり得る水害から身を守るために自分ができることを考える場面を設定して、本単元の目標に迫れるようにした。

(4) 研究主題に迫るための手だて

1 「個別最適な学び」を充実させる手だて	2 「協働的な学び」を充実させる手だて
<p>(1) 児童が主体的に「問い」を追究できる学びの選択 児童が自分の問いに対して、人数・資料・まとめ方を自由に選択して学習に取り組めるようにした。また、施設見学やゲストティーチャーの講話等の様々な体験活動を設定した。</p> <p>(2) 児童が課題の解決に必要な情報を選択できるICTの活用 防災に関するウェブサイトなどの資料を児童の学習者用端末にリンク集として配布することで、児童が適切な資料を必要に応じて調べることができるようにした。</p> <p>(3) 学習内容や時間のまとまりを見通した学習過程の工夫 学習問題から見いだした児童一人一人の問いを追究する時間を、5単位時間程度設定した。児童が自分の学びを調整しながら、柔軟に時間を使えるようにした。</p>	<p>(1) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える話し合い活動の充実 課題追究の場面において、毎時間の後半に報告会の時間を10分程度設けた。児童同士で伝え合うことでその時間に学んだことを再確認し、他の児童が学んだことを知ることで自分の問いにつなげられるようにした。また、学習問題について考えた後に、児童の防災意識を高めるために、水害時の備えについて考える場面を単元計画の終末に取り入れた。</p> <p>(2) 児童一人一人学びを共有するICTの活用 課題追究の場面で、学習者用端末に学習したことや振り返りを記録して、全体で共有できるようにした。学習者用端末を活用して、毎時間の学びの経過を共有することで、調べ学習の途中でも、児童同士で相談や質問ができるようにした。</p>

(5) 指導の実際「自然災害から人々を守る～水害からくらしを守る～」(12時間)

	時	○主な学習活動	本時の問い・めあて	・児童の反応	分析	■資料 ◇評価
課題把握	1	○市内及び市外における過去の自然災害について調べ、様々な水害が起きていることを知る。				■東村山市及び市外で起きた様々な災害(写真) ■災害の位置(地図) ■災害年表(都建設局HP) ■東京都防災HP「過去に起こった風水害から学ぶ」(HP) ■学校内体育館前の大きな水たまりの様子(写真) ◇ノートの記述や発言内容から「東京都には様々な自然災害が起きていること、現在水害による被害が多いことを理解できているか」を評価する。 【知】
		東村山市や市外で起きた自然災害には、どのようなものがあるのだろうか。				
		・東京都でも、たくさんの自然災害が起きている。特に、大雨による水害の被害が多い。 災害に関連するウェブサイトの閲覧(動画資料)や、学校内の水害の写真を通して、東京都及び身近な所でも水害が起きていることを捉えることができた。				
	2	○大雨の回数の変化、住宅の浸水被害の変化の資料から疑問を話し合い、その疑問について予想し、学習問題をつくる。				■東村山市空堀川の平常時の様子と氾濫時の様子(動画) ■フィクションドキュメンタリー「荒川氾濫」(動画) ■東京都の大雨の回数グラフ・浸水被害件数グラフ ◇ノートの記述や発言内容から「水害の被害の変化を資料から読み取り、被害を減らすための工夫や努力について考えられているか」を評価する。 【思】
		大雨の回数は年々増えているのに、建物の浸水件数がへっているのはなぜだろう。				
		【学習問題】 水害からくらしを守るために、だれがどのような工夫をしているのだろうか。 東京都の大雨の回数と浸水被害件数のグラフを比較し、それらの変化の理由を予想することによって、学習問題をつくることにつながった。				
	3	○水害を防いだり、起きた時に対応したりしている人たちがいること、「自助・共助・公助」という言葉の意味について知る。				■自助・共助・公助の関連図 ■防災・減災対策の写真 ◇ノートや振り返りシートの記述や発言内容から「水害に対する対策について、自分から問いを見だし、調べようとしているか」を評価する。 【態】
		【自助】 自分(家族) 【共助】 地域住民、避難所運営連絡会 【公助】 役所・警察・消防 ○学習問題に対して、「自助・共助・公助」の中から自分が追究する課題を選択し、グループに分かれて学習計画を立てる。				
		学習問題に対して、一人一人がどのような問いをもっているのか、学習者用端末内の共有シートに記録した資料を参考にして、自分が追究すべき課題を決める児童がいた。				
課題追究	4 5 6 7 8	○「自助・共助・公助」のグループに分かれ、学習計画にそって、水害を防いだり対応したりするための取組について調べる。				■教師作成のリンク集 ・東村山市ハザードマップ ・ニュース映像(動画) ・デジタル教材等(動画) ■避難所運営連絡会の講話 ■市防災安全部の講話 ■小平市ふれあい下水道館 ◇ノートやスライドの記述から「水害の対策について、具

		<p>○避難所運営連絡会による防災講話を聞く。 ○東村山市防災安全部による防災倉庫等の説明を聞く。 ○小平市ふれあい下水道館を見学する。</p> <p>見いだした問いに関わる施設の見学や関係者との対話等の体験活動を取り入れたことで、意欲を持続しながら調べ学習に取り組めた。</p>	<p>体的に調べることができているか」を評価する。【知】</p>
課題解決	9 10	<p>○調べたことを全体で共有し関係図にまとめ、学習問題について考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>地域の防災訓練 食料の準備 水害の情報収集</p> <p>自助 わたし・家族</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>地域の避難訓練に参加 天気予報をよく見る 防災グッズをそなえる</p> <p>防災・減災</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>水害ハザードマップ 水げん林 避難所の準備</p> <p>公助 東京都・東村山市</p> </div> </div> <p>【学習問題に対する考え】 水害から暮らしを守るための対策は、「自助・共助・公助」という形で行われ、それぞれが関わり合っている。</p> <p>他の児童が追究した内容について、興味深く聞く児童が多かった。また、学習問題について考える場面では、「市の防災部では～」など体験活動で学んだ内容を生かして、自助・共助・公助の視点から考えることができた。</p>	<p>■児童が作成した発表ノート・ワークシート・スライド ◇ワークシートや発言内容から「水害から人々の暮らしを守るために、自助・共助・公助が関わり合っていることを理解しているか」を評価する。【知】</p>
生かす	11 12	<p>○世間の防災グッズなどの備えの調査結果から防災に対する意識の低さを知り、自分たちにできる備えを考え、話し合う。</p> <p>今後の東村山市の水害時に備えるために、最も大切な対策は何だろう。</p> <p>○児童一人一人が書いた対策をグループで仲間分けしたり、ランキングでまとめたりする。</p> <p>「生かす」場面を意図的に設定したことで、「家にどんな防災グッズがあるか見てみよう。」「親が防災に関わる仕事をしているから、水害に向けてどんな対策ができるか聞いてみよう。」というように、問いを自分の事として考えることができた。</p>	<p>■内閣府・平成 28 年版防災白書「防災に関するアンケート調査」 ■民間警備会社・2021 年「防災に関する意識調査」 ■自作のシミュレーションニュース ◇ノートの記述や発言内容から「市の水害時に備えるために、最も大切な対策は何かを、自分の環境や立場で根拠をもって考え表現しているか」を評価する。【思】</p>

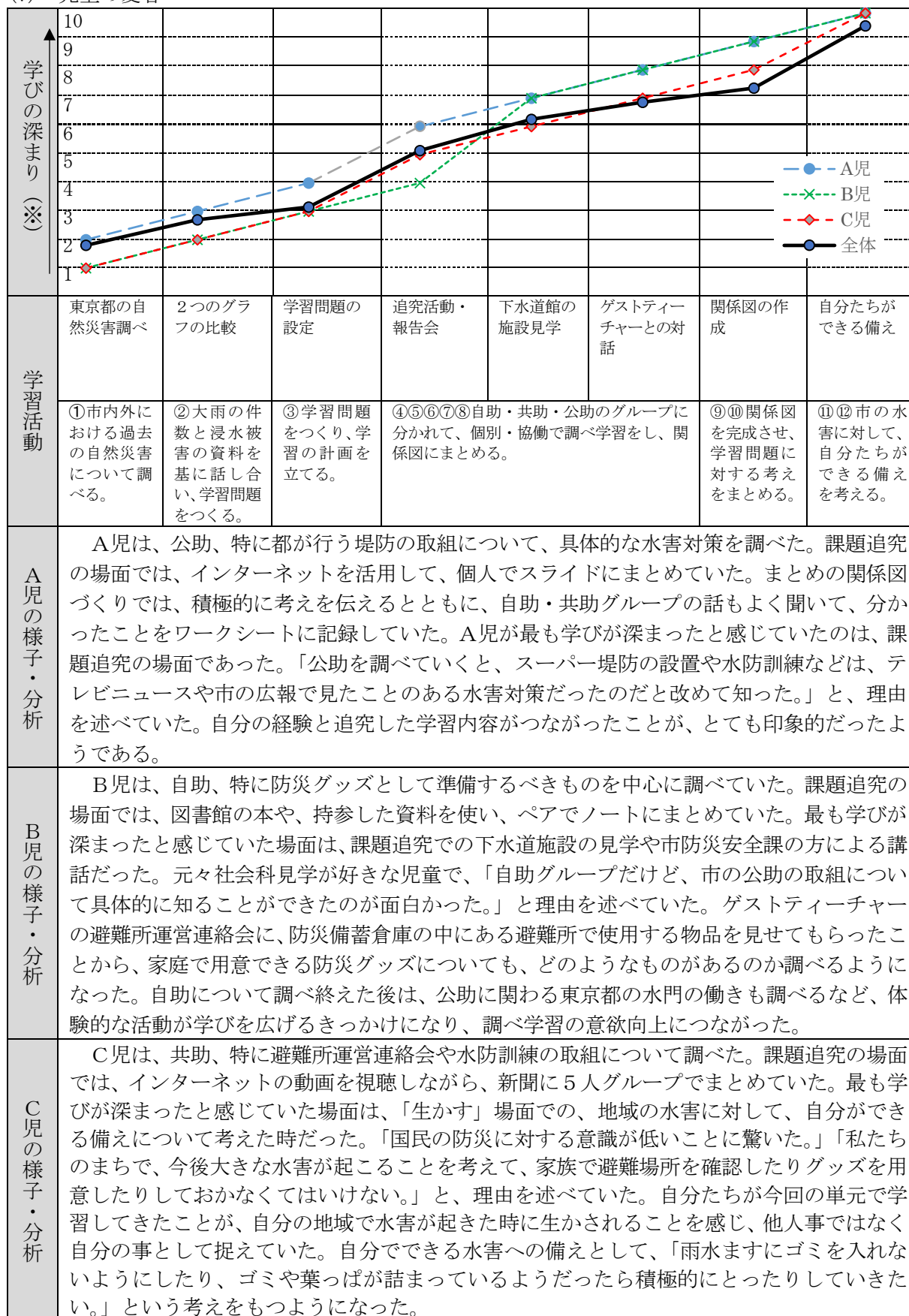
(6) 成果と課題

成果・児童一人一人が見いだした問いに対して、自分に合った調べ方や形態、まとめ方を選択できるようにしたことで、学習意欲を持続しながら追究する児童の姿が見られた。また、施設見学やゲストティーチャーの招聘など体験活動を取り入れながら追究したことも、学習意欲の向上につながった。

- ・それぞれのグループが調べたことを伝え合いながら、学習問題について考えたことで、「自助・共助・公助」の取組がどれも重要であることを実感できていた。
- ・地域の水害時の備えを考える場面を設けたことで、水害対策を自分の事として捉えていた。

課題・報告会では、他のグループが学習した内容をただ写している児童の姿が見られたので、報告会の流れを明示する等、支援の必要性を感じた。

(7) 児童の変容



※ 「学びの深まり」とは、単元終了後の質問紙調査において、どの場面でのどの程度自身の学びが深まったと感じたのか、数値化して自己評価したものである。

2 検証授業② 第5学年

(1) 単元名「自動車をつくる工業」

(2) 単元の目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(3) 教材観

本単元では、「製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること」「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること」をねらいとしている。そこで、日本を代表する工業である自動車工業について取り上げることにした。課題把握の場面では、簡易自動車づくりや見積もりシミュレーションの体験などを通して自動車工業への興味・関心を高め、自分の問いをもてるようにした。課題追究の場面では、児童一人一人が自分の問いを追究したり児童同士で協働的に学んだりしながら、工業生産に関わる人々の工夫や努力について考えることで、単元の目標に迫れるようにした。

(4) 研究主題に迫るための手だて

1 「個別最適な学び」を充実させる手だて	2 「協働的な学び」を充実させる手だて
<p>(1) 児童が主体的に「問い」を追究できる学びの選択 児童が自分の問いを見いだせるように、提示する資料や活動を精選し、課題追究の場面では、資料やまとめ方を選択できるようにした。また、個人で調べたり、他の児童と協働したりする場面を自分で選択できるようにすることで、より自分に適した方法で学べるようにした。</p> <p>(2) 児童が課題の解決に必要な情報を選択できるICTの活用 資料を児童の学習者用端末に配布することで、児童が必要に応じて活用できるようにした。様々な自動車会社のバーチャル工場見学などを利用することで、より具体的に調べることができるようにした。</p> <p>(3) 学習内容や時間のまとまりを見通した学習過程の工夫 自分の問いを追究する時間を2.5時間設定し、その中で調べたりまとめたりできるようにした。児童が自分の学びを調整しながら、柔軟に時間を使えるようにした。</p>	<p>(1) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える話し合い活動の充実 課題追究の場面では、共通する問いを調べている児童同士で、学習者用端末の共有機能を用いて、分かったことや相談したいことを伝え合う機会を設定した。また、異なる問いを追究していた児童同士で、各自が見付けた自動車づくりの工夫を1枚のシートにまとめる時間を設けた。プレスから輸送までの工程と工夫について各自が調べてきたことを集約することで完成できるシートにした。学習の見通しをもてるようにすることで、知識を共有することに必然性が生まれるようにした。</p> <p>(2) 児童一人一人の学びを共有するICTの活用 学習者用端末に自分の問いを集約し、誰がどのようなことを調べているのかすぐに分かるようにすることで、いつでも他の児童と相談したり質問したりできるようにした。</p>

(5) 指導の実際「自動車をつくる工業」(9時間)

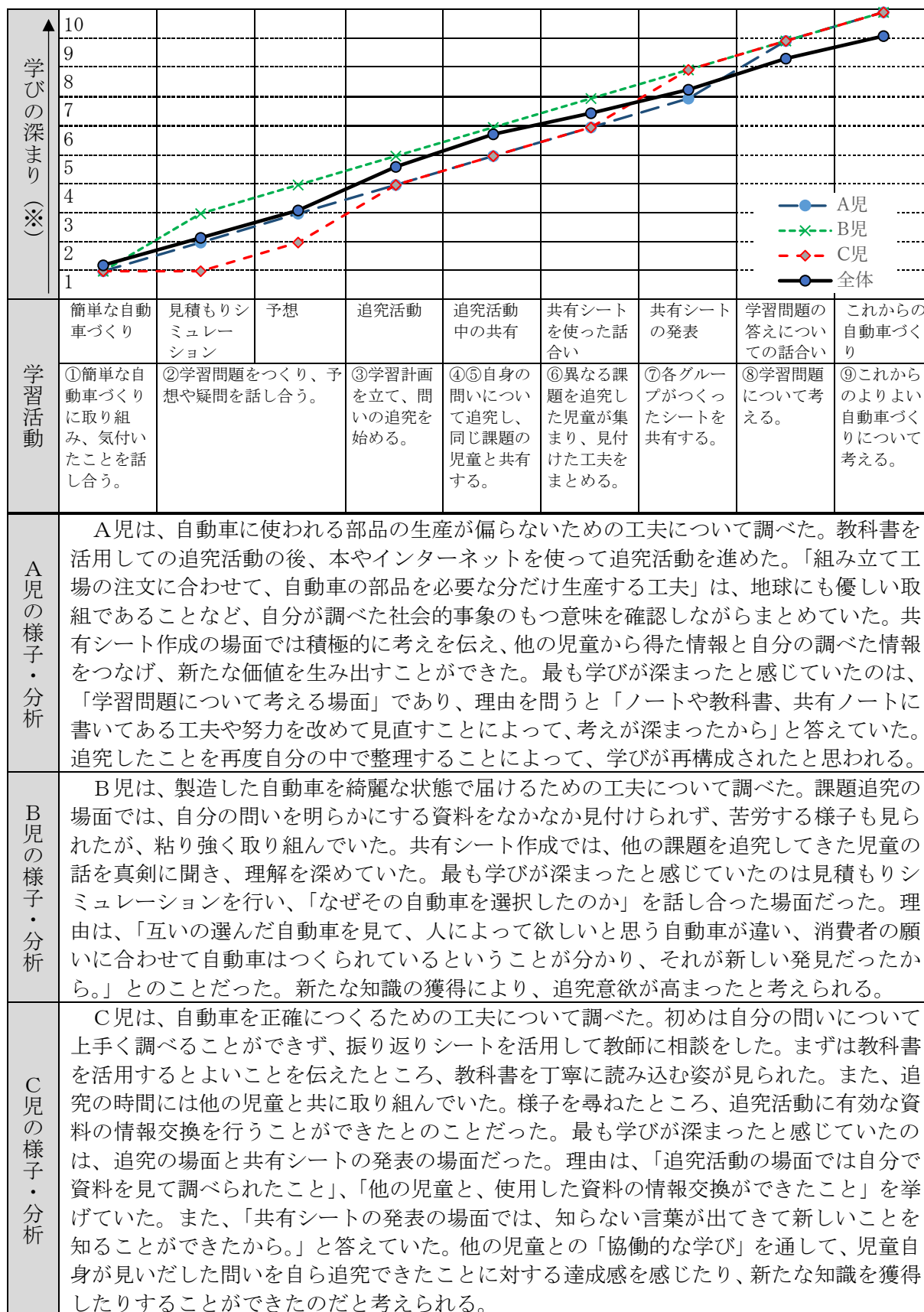
	時	○主な学習活動	本時の問い・めあて	分析	■資料 ◇評価
課題把握	1	<p>○前単元の学習内容から、日本では自動車工業が盛んであることを想起する。</p> <p>○新聞の記事から、世界の中で日本の自動車工業は盛んであることを知る。</p> <p>簡単な自動車づくりに取り組み、気付いたことを話し合おう。</p> <p>○各班でたくさんつくるための作戦を話し合い、簡易自動車づくりを行う。</p> <p>○簡易自動車づくりに取り組んで気付いたことを発表する。</p> <p>○自動車の部品の数(約3万個)と2020年上半期に工場で作られた自動車数(10分間に約48台の生産)を知る。</p> <p>○振り返りシートに本時に学んだことと感想を記入する。</p>			<p>■自動車の部品の数</p> <p>■自動車生産台数</p> <p>◇ノートの記述や発言内容から「自動車の製造の工程などに着目して、自動車工業への興味・関心が高まっているか」を評価する。【思】</p>
	2	<p>○自動車の見積もりシミュレーションに組み、それぞれの選んだ理由から気付いたことを話し合う。</p> <p>○実際の見積書から付属品などたくさんの選択肢があること、注文した自動車を受け取るには1か月半～2か月の時間がかかることを知る。</p>			<p>■見積もりシミュレーション</p> <p>■見積書</p> <p>■自動車会社～クルマこどもサイト～</p>
課題追究	3	<p>学習計画を立て、学習方法を選び、自分の問いについて調べよう。</p> <p>○自分の問いがどのカテゴリーに属しているかを確認し、問いが複数ある場合はどの順番で調べていきたいか整理し、学習計画を立てる。</p> <p>○各自の調べたいことについて学習者用端末を使って、学級で共有する。</p> <p>○調べる方法と整理する方法を確認し、追究する。</p> <p>・調べる方法⇒教科書、資料集、本、学習者用端末</p> <p>・整理する方法⇒ノート、ワークシート、学習者用端末に、文章や関連図などを使ってまとめる。</p>			<p>◇ノートや振り返りシートの記述、発言内容から「自動車の製造の工程、優れた技術などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思】</p>
					<p>■組み立て工場の写真・動画</p> <p>■組み立て工場と関連工場の関連図</p> <p>■自動車の輸送の写真や図</p> <p>◇スライドや振り返りシートの記述から「自動車生産について予想し、学習計画を立てようとしているか」を評価する。【態】</p>

	4 5	<p>自分の問いについて調べ、まとめよう。</p> <p>○個人で追究したり、他の児童と協働したりしながら、追究活動に取り組む。</p> <p>○追究内容が共通している児童同士で交流し、分かったことや考えたことを共有する。</p> <p>他の児童との共有からヒントを得て、更なる追究活動に取り組もうとする児童がいた。C児は振り返りシートを活用して教師に相談し、学びの調整をすることができた。</p>	◇ノートやワークシート、スライドの記述から「自分の問いを追究することを通して自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。【知】
	6 7	<p>調べたことを友達と共有し、自動車づくりについての理解を深めよう。</p> <p>○調べたことを共有し、自動車づくりの工程や工夫を共有シートにまとめる。</p> <p>A児は、自分が追究していない課題についても自動車工業に関わる人々の工夫があることを知り、自身の追究内容とつなげることで、自動車づくりについての理解を深めることができた。</p>	◇ノートや振り返りシートの記述や発言内容から「自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え、表現しているか」を評価する。【思】
	8	<p>これまでの学習を振り返り、学習問題に対する考えを話し合い、まとめよう。</p> <p>○自分で追究した内容や他の児童と共有した知識を基に、学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>○学習者用端末を活用して班で考えを共有し、一つにまとめる。</p> <p>○各班で話し合ったことを全体で共有する。</p> <p>学習問題に対する考えを班で共有し、一つにまとめることで、具体例から概念的な理解へと考えを深めることができた。</p>	◇ノートや振り返りシートの記述から「自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え、表現しているか」を評価する。【思】
課題解決	9	<p>これからの自動車づくりのあり方について考えよう。</p> <p>○過去と現在における自動車の事故時の損壊具合の違いを比較する。</p> <p>○自動車開発が人々の願いに合わせて行われていることに気付く。</p> <p>○既習事項を振り返り、消費者又は生産者の立場から、今後のよりよい自動車づくりについて考え、話し合う。</p> <p>自動車づくりに関わる人々が速く正確につくるためだけでなく、人々の願いや社会の状況に対応して自動車の開発をしていることに気付き、今後の自動車づくりについて自分の考えをもつことができた。</p>	<p>■過去と現在における自動車の事故時の損壊具合</p> <p>◇ノートや振り返りシートの記述から「学習したことを基にこれからの自動車生産の発展について考えようとしているか」を評価する。【態】</p>

(6) 成果と課題

- 成果**・課題把握の場面では、簡易自動車づくりの作業や資料提示の工夫を行ったことで、児童の関心を高め、追究活動につながる問いをもつことができた。
- ・課題追究の場面では、自分の問いを追究する時間を保障し、追究活動の形態やまとめ方を選択できるようにしたことで、児童は主体的に粘り強く追究活動に取り組む姿が見られた。
 - ・各自が追究活動で得た情報を集約し、完成できる課題に取り組む「協働的な学び」の場を設定したところ、課題の解決に向けて意欲的に話し合う児童が多く見られた。
- 課題**・課題追究の場面では、共有の時間を設けたことで児童の思考を遮断してしまう場面があった。児童自身が必要に応じて共有する方が追究活動に専念できた。教師が一人一人の学びを的確に見取り、学びの調整を促す必要があった。

(7) 児童の変容



※ 「学びの深まり」とは、単元終了後の質問紙調査において、どの場面でどの程度自身の学びが深まったと感じたのか、数値化して自己評価したものである。

3 検証授業③ 第6学年

(1) 単元名「全国統一への動き」

(2) 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の政治の特色に着目して、絵画資料や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめたことから、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(3) 教材観

本単元は、織田信長・豊臣秀吉が目指した統一事業が徳川家康に引き継がれて江戸幕府を開き、大名への支配を強めたことを捉え、徳川家による治世が安定化したことを理解することをねらいとしている。そのため、課題把握の場面では、長篠合戦図屏風や勢力図の変遷、国内の戦の様子から3人の武将が力を付けたことを取り上げ、3人の武将や天下統一への関心を高め、問いをもてるようにする。課題追究の場面では、児童の興味・関心のあることについて学びの選択をしながら考えたり、児童同士で協働的に学んだりする。

(4) 研究主題に迫るための手だて

1 「個別最適な学び」を充実させる手だて	2 「協働的な学び」を充実させる手だて
<p>(1) 児童が主体的に「問い」を追究できる学びの選択 課題追究の場面では、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の中から自分の興味に応じて学びたい人物を決めて重点的に追究した。 ・追究する課題⇒学習問題に基づいて、重点的に調べたい人物と内容を決めて追究した。追究に当たっては、ミッションカードを用意し、それぞれの人物で必ず調べる事柄を決めておくことで、知識の習得を図った。</p> <p>(2) 児童が課題の解決に必要な情報を選択できるICTの活用 課題追究の時間に活用できそうな資料をリンク集として学習者用端末に送付し、インターネットを使って調べ学習を進められるようにした。リンク集には内容の充実度と難易度をレベル分けして提示し、児童が自分の学びに適した資料を選択できるようにした。</p> <p>(3) 学習内容や時間のまとまりを見通した学習過程の工夫 課題追究の時間では織田信長・豊臣秀吉・徳川家康について2.5時間かけて追究できるようにした。興味をもった人物及び内容について主体的に追究することで、児童が興味・関心を持続しながら調べていけるようにした。</p>	<p>(1) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える話し合い活動の充実 課題追究の場面では、同じ人物を調べた児童同士で集まり、追究した事柄に大きな相違がないか確認したり、業績が与えた影響について話し合ったりする共有の時間を設定した。また、追究した人物以外について知るために、違う武将を調べた児童同士が共有する時間も設定し、協働的な学びの充実を図った。 課題追究後半は「影響度グラフ作成」という共通の課題に取り組んだ。個々の児童が追究した内容を組み合わせることで、児童それぞれが学んだことを伝え合う必要性を生み出すとともに、調べた内容を多角的な視点から議論できる場を設定した。</p> <p>(2) 児童一人一人の学びを共有するICTの活用 学習者用端末を活用して、一人一人が追究している内容や進捗状況について共有することで、課題追究の途中においても友達に相談したり質問したりできるようにした。</p>

(5) 指導の実際「全国統一への動き」（6時間）

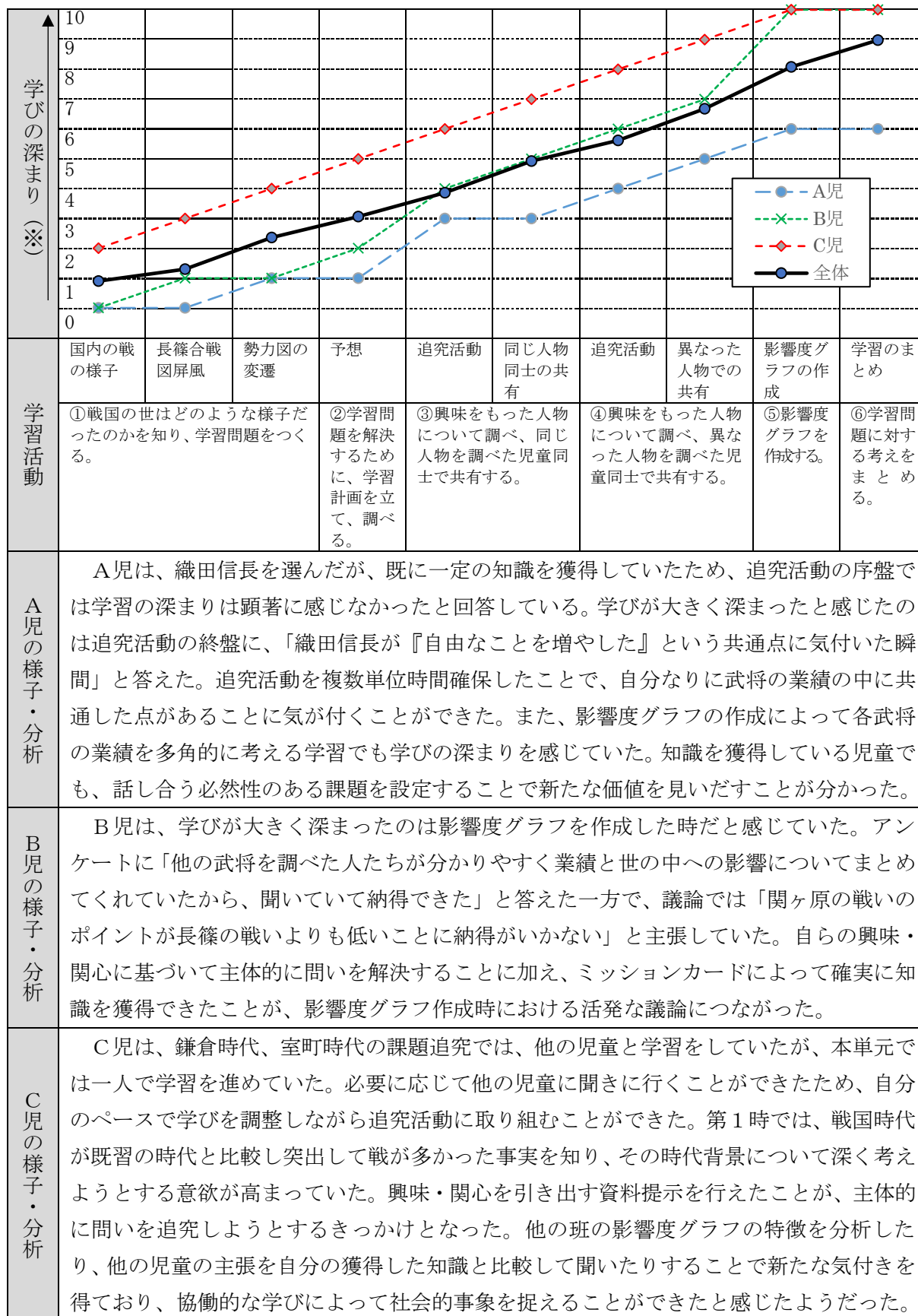
場面	時	○主な学習活動 本時の問い・めあて ・児童の反応 分析	■主な資料 ◇評価
課題把握	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 戦国の世はどのような様子だったのだろうか。 </div> <p>○国内の戦の様子を知り、室町時代の終わりから安土桃山時代にかけて日本各地で多くの戦が行われていたことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は京都の方での戦が多かったが、地方に広がっている。 <p>○長篠合戦図屏風を見て、気が付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左側は銃を使っていて、右側は弓や槍を使っている。 ・3列になって銃を撃っている。 <p>○室町幕府の力が衰退化し、群雄割拠の状態であったことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの武将が戦で力を示していた。 <p>○江戸時代が始まってからの戦の様子と勢力図の変遷を見て、大きな変化をもたらした3人の武将について確認し、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長が少しずつ勢力を広げていったことが分かる。 ・豊臣秀吉の天下統一ってなんだろう。 ・徳川家康は安定した世の中をつくったのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【学習問題】 3人の武将はどのようにして天下統一に向けて勢力を広げたのだろうか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; background-color: #f0f0f0;"> 動画資料を用いることで、時期や時間の経過に着目して時代の流れを捉えることができた。勢力の広がり方から、時代を動かしていたのが織田信長・豊臣秀吉・徳川家康であることを捉えることができた。 </div>	<p>■国内の戦の様子（動画）</p> <p>■長篠合戦図屏風</p> <p>■勢力図の変遷</p> <p>◇ノートの記述や発言内容から「室町・安土桃山時代の様子や織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の働きに着目して問いを見いだしているか」を評価する。</p> <p>【思】</p>
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習問題を解決するために、学習計画を立て、調べよう。 </div> <p>○3人の主な業績について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長→キリスト教の許可、長篠の戦い ・豊臣秀吉→太閤検地、刀狩、天下統一 ・徳川家康→関ヶ原の戦い、江戸幕府を開く <p>○学習問題に対する予想をし、自分で知りたいことを個人で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長は商業を盛んにしてお金を持っていたから、鉄砲を使った戦いができ、勢力を広げられたと思う。 ・豊臣秀吉は大阪城を築き、力のある人を自分の周りに置くことができたから勢力を広げられたと思う。 ・徳川家康は大名が逆らえないような政策をしたから、勢力を広げられたと思う。 <p>○個人の予想や知りたいことを共有・整理し、学習計画を立てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①織田信長の業績とその影響 ②豊臣秀吉の業績とその影響 ③徳川家康の業績とその影響 <p>○織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の中から、興味をもった人物について調べ学習を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; background-color: #f0f0f0;"> 学習問題に対する予想では「誰が何をしたのか」と書かせることで、学習計画を立てる際に3人の武将に焦点をしぼることができた。児童の興味・関心が高まっている中で、課題追究に入ることができた。 </div>	<p>■年表</p> <p>■資料集</p> <p>■教科書</p> <p>■キリスト教の伝来</p> <p>■合戦資料</p> <p>■楽市楽座（動画）</p> <p>■朝鮮半島と日本（動画）</p> <p>■刀狩</p> <p>■大阪城天守閣</p> <p>■大阪の陣（動画）</p> <p>◇ノートの記述や発言内容から「群雄割拠の状態から江戸幕府が開かれるまでについて予想し、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。</p> <p>【態】</p>
課題追究			

	3 4	<p>興味をもった人物について調べよう。</p> <p>○織田信長・豊臣秀吉・徳川家康について、興味をもった人物について調べ学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長は関所をなくしたり、自由な営業をさせたりしていたことが分かった。 ・豊臣秀吉は農民たちの反乱を防ぐために刀狩令を出した。 ・徳川家康は関ヶ原の戦いに勝ち、江戸幕府を開いた。 <p>○共通の人物を調べた児童同士でグループをつくり、調べたことを共有する。(3時間目)</p> <p>○織田信長・豊臣秀吉・徳川家康を調べた児童同士が集まり、3人の武将がどのような業績を残したのか共有する。(4時間目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ政治の進め方が違うことが分かった。 <p>A児は「織田がキリスト教を認めたことが分かった。」ということから、「なぜキリスト教を認めたのか」という問いをもち追究活動を続けた。問いを追究していくほど、児童が抱く問いは深くなっていくことが分かった。</p>	<p>◇ノートやスライドの記述から「織田信長が鉄砲を多用するなどして領地を拡大したことや豊臣秀吉が検地や刀狩を行ったこと、徳川家康が江戸幕府を開いたことなどそれぞれの人物が行ったこととその目的や影響について理解しているか」を評価する。【知】</p>
課題解決	5	<p>調べたことを基に、影響度グラフを考えよう。</p> <p>○3人の武将について学習したことを根拠にして、グループで影響度グラフを考える。</p> <p>○2～3グループで集まり、影響度グラフを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらのグループも徳川家康にポイントを多く付けている。 ・なぜ本能寺の変のポイントが高いのか教えてほしい。 <p>前時にそれぞれの武将が行ったことを共有していたため、迷いなく影響度グラフ作りの活動に取り組むことができた。追究活動で習得した知識を根拠として述べることで、議論が活発になった。共通の課題に取り組む活動を活発化させるには、自分が調べた業績以外のことについて、ある程度理解しておくことが必要だと分かった。</p>	<p>◇ノートの記述や発言内容から「織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の行ったことについて調べたことを基に天下統一に向けた世の中の動きを考え表現しているか」を評価する。【思】</p>
	6	<p>学習問題について考えよう。</p> <p>○織田信長・豊臣秀吉・徳川家康が行ったことについて振り返る。</p> <p>○学習問題の答えを個人で考え、文章で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長は有力な大名を倒して勢力を広めたり仏教勢力を抑え込んだりすることで、天下統一を目指した。豊臣秀吉は、織田信長の政治を継いだ後、検地と刀狩などを行いながら天下統一を果たした。徳川家康は多くの大名を味方に付け、関ヶ原の戦いで勝利し、その後征夷大将軍になったことで江戸幕府を開いた。 <p>課題追究で時間をかけて調べたり、影響度グラフの作成で勢力を広げるための政策について考えたりしたことで、どの児童も自力で学習問題に対する考えを書くことができていた。</p>	<p>◇ワークシートの記述から「学習したことを基に、3人の武将による政策が世の中へ影響を与えたことを説明しているか」を評価する。【思】</p>

(6) 成果と課題

- 成果**・課題追究では、児童の興味・関心に基づいて調べる人物を決めたことで、単元の最後まで高い学習意欲を持続させて学び続ける姿が見られた。
- ・個の学習を進めながら、分からないことがあれば他の児童に聞きに行ったり教えてもらったりする姿があり、児童が主体的に追究活動を行っていた。
 - ・「影響度グラフ」という共通の課題に取り組むことによって、児童は各武将の業績に伴う世の中への影響という視点を明確にできた。共有タイムを取り入れ、自分が追究した人物以外の業績も知ることができたことで、議論が活発になった。
- 課題**・追究活動によって生まれた新たな問いを児童は主体的に追究し続けたが、時間が不足してしまった。教師が追究活動における到達の目安を伝達するなどの工夫が必要だった。

(7) 児童の変容

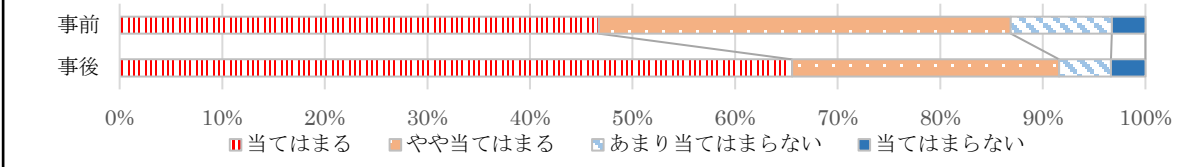


※ 「学びの深まり」とは、単元終了後の質問紙調査において、どの場面でどの程度自身の学びが深まったと感じたのか、数値化して自己評価したものである。

Ⅶ 成果と課題（アンケート調査より）

単元の事前・事後にアンケート調査を行い、その結果を分析した。（☆成果 ▲課題）

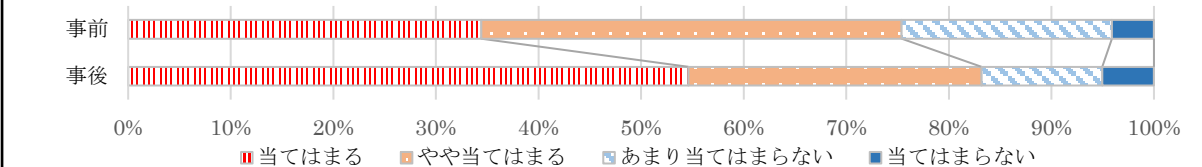
① 社会科の調べる時間では、自分が気になることや興味があることを調べることができている。



☆ 「当てはまる」と回答した児童の割合は、46 パーセントから 65 パーセントに増加している。自らの意志で問いを設定し、問いを追究・解決していく手だてを取り入れたことにより、児童一人一人の興味・関心に応じた課題追究を行うことができたと考えられる。その結果、単元を通して学習意欲を維持しながら自主的、自発的に学習を進める姿が見られた。

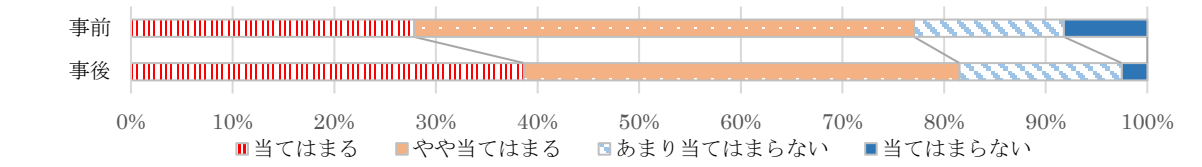
☆ 否定的な回答をした児童の割合は、13 パーセントから 8 パーセントに減少している。本研究では、自分の興味・関心に応じて、自ら学び方を選択しながら課題追究を行うことができたため、社会科の学習に苦手意識をもっていた児童でも、主体的に追究活動を進めることができたと考えられる。

② 社会科の学習で、友達と話し合ったことをその後の話合いや調べ学習に生かすことができている。



☆ 「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した児童の割合は、75 パーセントから 83 パーセントに増加している。課題追究の途中で共有する時間を設けたことにより、児童は新たな問いを見だし、更なる追究活動に主体的に取り組むことができたと考えられる。また、各自が調べたことを共有することによって解決できる学習活動を設定したことで話合いに必然性が生まれた。そして、学習問題について考える場面では話し合ったことを生かして解決しようとする姿が見られた。

③ 社会科の学習では、納得するまで調べたり話し合ったりできている。



☆ 「当てはまらない」と回答した児童の割合は、8 パーセントから 2 パーセントに減少している。課題追究の時間を 2.5～5 単位時間に設定して児童が自らの学びを調整できるようにしたこと、追究する課題を選択できるようにしたこと、話合い活動に必要な知識を獲得することができ、どの児童も話したいと思う材料をもつことができた。

▲ 「当てはまる」と回答した児童の割合が 50 パーセントに満たない。児童がより満足できるようにするために、教師の評価を即時的に、児童にフィードバックする必要がある。児童の学びを価値付けることで、児童が自信をもち、安心して学びを続けていけるようにする。

令和4年度 教育研究員名簿

小学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 明 正 小 学 校	主任教諭	大 谷 達 也
目 黒 区 立 五 本 木 小 学 校	主任教諭	鈴 木 恵 美
練 馬 区 立 南 が 丘 小 学 校	主任教諭	村 井 晃 子
葛 飾 区 立 二 上 小 学 校	主任教諭	増 田 雅 彦
三 鷹 市 立 羽 沢 小 学 校	主任教諭	西 野 那 見
東 村 山 市 立 萩 山 小 学 校	主幹教諭	松 本 悠 司
多 摩 市 立 東 落 合 小 学 校	主任教諭	吉 原 涼 子

〔担当〕 東京都教職員研修センター企画部企画課
指導主事 中村 伸也

令和4年度
教育研究員研究報告書
小学校・社会

令和5年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849